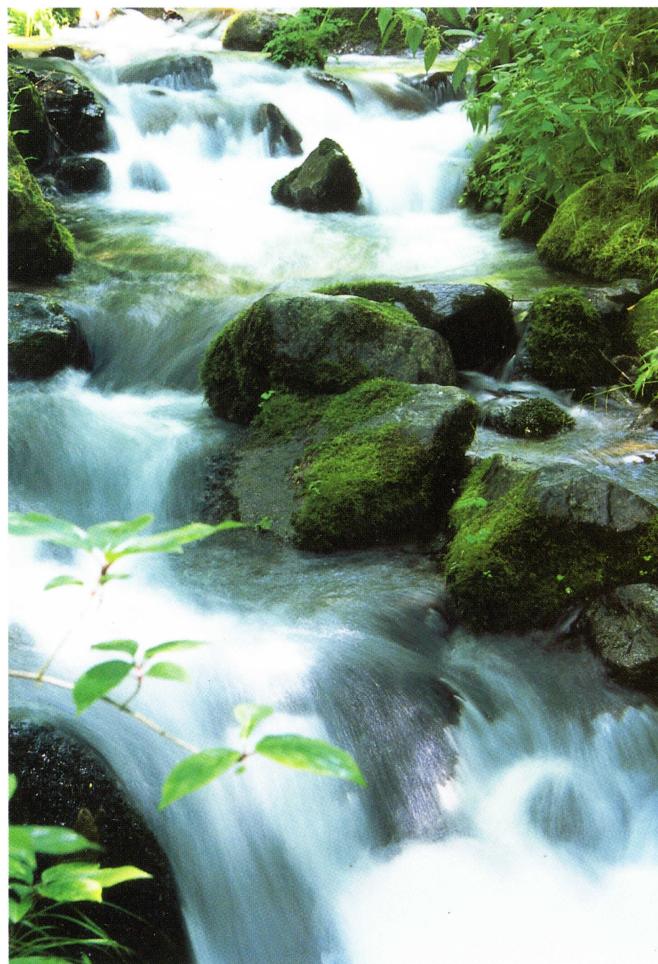


30周年記念誌

あゆみ

2002年

東部町文化協会





## はじめに

文化協会会長

福 島 慎 雄

昭和48年に発足しました、東部町文化協会が、今年で30周年を迎えることができました。この30年に亘る長い間、熱心にご指導をしてくださった先生方、又同時に会員のみなさんによる、情熱と地道な活動が続けられ、その積み重ねが、現在の文化協会発展の基となつた事を皆んなで喜び合いたいと思います。そしてこの節目に当り「30周年のあゆみ」を皆んなでつくり上げ、今までの活動の評価と反省をしながら、今後の文化協会を一層発展させるべき糧にしたいと計画をしたところです。

昭和48年12月発行の東部町広報をみると「50円を出せば誰れでも入れます文化協会」との見出しで文化協会発足の記事が掲載されております。ちなみに48年の10大ニュースをみると広域農道工事開始、福祉センター完成、急行列車が田中駅に停車又田中小学校改築等が上位ランクされ、選外ですが、文化協会発足に43票が入っておりました。戦時中、心ならずも休止させられていた文化活動が、終戦後の混乱期をのりこえ、約20年を経てやっと地に着いた活動が始まった当時の諸先輩方の意気込みが伝わって来る気がします。それにしても、文化、芸術の活動は、平和という基盤の上にたって始めて動き出すものなのです。

21世紀を迎えた今、経済の時代から、文化の時代に入っていると言えます。ものの豊かさの時代から、心の豊かを求める時代に移行する中で、現在私達の活動の条件は恵まれております。文化芸術（生涯学習）の楽しさや生きがいを自分で享受するだけでなく、多くの仲間、友達にも味わわせる活動を一層活発にしていきましょう。

# 目 次

はじめに .....	文化協会会长 福島 慎雄	1
目 次 .....		2

## 〈記念のおことば〉

文化協会発足30周年を祝して .....	東部町長 保科 優教	5
薫り高い文化の発展を願って .....	東部町議会議長 土屋 静一	5
発足30周年を祝って .....	東部町教育長 星合 孝史	6
古い伝統を大切にしながら、幅広く新しい文化の導入を .....	東部町中央公民館長 柳澤 英夫	6
お祝いのことば .....	東部町体育協会長 唐澤 光章	7

## 〈先輩のおことば〉

思いつくままに .....	元副会長 関 恒代	8
文化協会の今昔 .....	元会長 丸山 光夫	8
30周年に寄せて .....	前副会長 小林 清枝	9
30周年記念によせて .....	前会長 関 義豊	9
趣味は生き甲斐 .....	元副会長 佐藤 利秋	10

## 【第1部】

### 30年の歩みを振り返って

あなたも参加を ——会費五十円で文化協会発足— .....	広報担当者	11
この様なこともあった .....	東部町美術会会长 寺島 長虎	12
文化協会発足の頃 .....	岩下 止代	13
創造の歩みを祝って ——晩霞の羽衣かしわにふれて— .....	長岡 克衛	13
音楽と私 .....	土屋征志郎	14
【座談会】 協会発足10周年記念 東部町の文化を語る .....	広報担当者	14
発刊に寄せて .....	東部町文化協会会長 小林 進	15
文化協会に憶う .....	竹内 貞良	16
“山びこ” 50年に想いを馳せて .....	白石みさよ	16
思い出される町民センターの不寝番 .....	前文化協会会長 小林 進	17
一人一学習で老後も楽しめる活動を .....	文化協会会长 丸山 光夫	17
【特集】 文化の里を考える座談会 文化協会はどうあるべきか .....	せせらぎ編集委員	18
文化活動と学習ボランティア .....	社会教育委員 小山 定雄	18

東部町文化会館落成	東部町長	保科	俶教	20
わたしの愛する東部町	北御牧村	依田	千祥	21
「墨蹟展の企画」を顧みて		長岡	惇司	21
20周年を祝して	東部町議会議長	吉池	象次	22
車の両輪	東部町公民館長	関	亀一	22
おもいで		荻原とめよ		23
むかしと今	東部町公民館長	石川	好一	23
歌が好き、仲間が好き ——歌を通して仲間づくり—	せせらぎ編集委員			24
人形		高橋	節	25
30周年を迎えた菊花会	東部町菊花会長	松澤	房視	25
三十周年を祝して		石井	補人	26
東部町美術会発足50周年を迎えて	東部町美術会長	荻原	芳雄	26
「せせらぎ」20号のあゆみ	編集委員長	清野	竜	27

## 【第2部】

### 各部会の歩み

絵画部会			29
水墨画部会			30
写真部会			31
書道部会			32
彫刻部会			33
民謡部会			34
舞踊部会			35
詩吟部会			36
謡曲部会			37
合唱部会			38
華道部会			39
茶道部会			40
手芸部会			41
ちぎり絵部会			42
人形部会			43
菊花部会			44
短歌部会			45

俳句部会	46
陶芸部会	47
音楽部会	48
軽音楽部会	49
ダンス部会	50
棋道部会	51
文芸創作部会	52
籠手芸部会	53
邦楽部会	54
川柳部会	55
表具部会	56
せせらぎ部会	57
カラオケ部会	58
東部町郷土史部会	59

### 【第3部】

#### 文化協会の歩み

東部町文化協会歴代役員名簿	61
東部町文化協会部会歴代役員名簿	62
東部町文化協会役員名簿 平成14年度	66
文化協会事業報告	67
金銭出納帳——こぼれ話 小林 俊子（副会長）	76
役員研修旅行	77
30周年記念事業の概要	78
東部町文化協会規約	79
あとがき	82
奥付	83

## 〈記念のおことば〉



### 文化協会発足30周年を祝して

東部町長

保科 傲教

東部町文化協会発足30周年を心からお祝い申し上げます。

昭和48年11月に寺島長虎先生を初代会長として発足し、以来30年にわたり東部町の芸術・文化活動の中心として発展してこられましたことに対し、あらためて敬意を表する次第です。

生活水準の向上や急激な高齢化社会の到来、自由時間の増大など社会環境が大きく変化するなか、町では町民憲章において「からだをきたえ教養を高め、豊かな文化とスポーツの町にします」と定め、また平成5年には生涯学習町づくりを宣言し生涯学習を積極的に推進してまいりました。私は常日頃から「町づくりは人づくり」であるとの思いから、町民の皆様が健康で明るく働き、生き甲斐を持って充実した生活をして頂くための一助として、町公民館主催で生き生き生涯学習塾を開講し、毎年多くの町民の皆様に受講をして頂いております。そしてこれには文化協会のみなさまに講師をお願いいたし、生涯学習の一端を担って頂いております。また、私も町民の1人として文化協会に加入し、グループの皆さんと一緒に自己研鑽に励んでおるところです。

終わりに会員の皆様のご健勝と東部町文化協会が益々発展されますことを祈念申し上げまして、お祝いのことばとします。



### 薫り高い文化の発展を願って

東部町議会議長

土屋 静一

近年、平均寿命の著しい伸びと相まって余暇時間の活用、自己研鑽の機運、社会構造の急激な変化により何かを学びたいなど、生涯教育の必要性が指摘され、生涯を通じてできるものがないかと考えている人が年々増加しています。

そんな中で、学びたいという人々の受け皿として文化協会があり、今まで脈々とその歴史が築かれ、本年30周年をむかえられた事は大変喜ばしいことであり、役員の皆様をはじめ、会員各位の活動に対して改めてお祝いを申し上げます。

お聞きしますと、会員も約1,800人程となり、自主的な文化活動を通して会員相互の親睦を図り、豊かな人間性の形成に大いに役立っているとのことであり、いきがいのある活動が展開されていることと拝察申し上げます。

文化協会の活動を通じて、学んだ知識・技術などを大いに生かし、地域文化の発展と町の文化振興に更にご協力をいただくと共に、「今日よりも、明日をより豊かに健康に、より幸福に生きる」ことを願い、会員相互の薫り高い文化の発展と、誇り高い文化の花が東部町に咲くよう心から祈念し、お祝いの言葉といたします。



## 発足30周年を祝って

東部町教育長

星合孝史

東部町文化協会が、記念すべき発足30周年を迎られましたことを心からお祝い申し上げます。また、この機会を大事に受けとめ、協会の歩みを記念誌にまとめられる企画に対しましても改めて敬意を表したいと思います。

さて、私共の東部町は、これから時代を見通して、先進的に生涯学習まちづくりの構想をまとめ、その実践を図ってきました。その意味で平成5年は、一つの節目として重要なことは勿論ですが、それまでの生涯学習の動向も見逃すことができません。と申しますのは、この町に生まれた「山びこ合唱団」は、発足から50年が経過しようとしています。そして、町内には今まで30年、20年、10年と大変長い年月が刻まれている学習グループをいくつも数えることができるからです。

そんな中で、私はある秋の地区ふれあい文化祭閉講式の折に聞いた、受講生代表のことばを忘れることができません。それは、「できなかつたことが、できるようになりました。嬉しかったです。一緒にやつた仲間と楽しかったです。」と言う内容ですが、町の生涯学習の目的は、まさに、この短いことばに集約されているように思います。

このように、文化協会へ結集されている会員各位の真向きな努力、そして指導者・役員の適切なリードによって、日々の心のゆとり、豊かさを実感される方が着実に増えていることを大変嬉しく、また心強く思う一人であります。

終わりになりましたが、この30周年を記念すべき契機として、会員の方々のご健勝と町文化協会のいよいよご発展をご祈念申し上げ、お祝いのことばとします。



## 古い伝統を大切にしながら、幅広く新しい文化の導入を

東部町中央公民館長

柳澤英夫

東部町文化協会は昭和48年に創立され、今年、平成14年度は30周年に当たる記念すべき年です。心よりお祝い申し上げます。おめでとう御座います。31の部会、228のサークル、約1,800人の会員という、大勢の人々が参加され、近隣町村より抜きん出たすばらしい会だと思います。

先日、文化協会の民謡部会の発表会がありました。実に真剣で、質の高い内容で、楽しい会でした。どの部会も、同様な充実した活動をされておられると思います。

「いきいき生涯学習塾」で、学習され、終了された皆さんのが、グループで文化協会に加入され、継続して活動されておられ、うれしく思います。この組織を今後も大切にしたいと思います。

書道、茶道、謡曲等歴史の古いものから、軽音楽、カラオケ、ダンスまで幅広い活動が行われているので、町民にとっては沢山の中から選択でき、参加できる機会が多いので有難いことです。

今後は更に、青年や壮年の皆さんも、子どもさんも参加できるような、サークルの創設、活動の工夫、配慮をしていただけると有難いです。

今までの、サークルを大切にしながら、新しい内容のサークルも立ち上げられないでしょうか。例えば、IT関係でホームページ・インターネット、動植物関係で野鳥観察・野草栽培、自然科学関係で宇宙観察・趣味の数学、文学関係で古典鑑賞・哲学読み合わせ、会話言語で韓国語・中国語などはどうでしょうか。



## お祝いのことば

東部町体育協会長

唐澤光章

東部町文化協会が、創立30周年を迎えるにあたり心からお祝いを申しあげます。

文化協会が中心となり、その広いジャンルでの活動を通じて、町民一人ひとりの生涯にわたる豊かな人間性の涵養と、地域文化の創造に注がれた積年のご努力に、深甚の敬意を表します。

31部会、210グループ、1800余名の会員を擁する文化協会が、「共にふれあい、たすけあい、学びあう」という町生涯学習まちづくりの理念に添い、会員お互いが、常に向上心に燃え、意欲的に活動を続けてこられた成果は誠に大きく、計り知れない重さがあります。

社会が成熟し、人びとの心の豊かさが一層求められる今日、文化協会が果たさなければならぬ役割は大きく、今後の活躍をご期待申しあげるところです。

よく、文化とスポーツは車の車輪に例えられますが、まさしく、健康で明るく、教養豊かな人と、文化あふれる地域づくりには欠かせない二大要素であると思います。

これから、健康で心豊かな人づくりと、文化の香り高い町づくりに、私ども体育協会も、共にその役割を担う所存であります。

創立30周年を節目に、東部町文化協会の更なるご発展と、会員みなさんのいよいよのご健勝をお祈り申しあげ、お祝いのことばとします。



## 〈先輩のおことば〉

### 思いつくままに

元副会長 関 恒代

文化協会30周年記念誌の原稿の依頼を頂きました。20年の思い出を書いたと思いましたら、もう10年が過ぎ30年の歩みを綴ってというお手紙を頂き、月日の流れの早さに驚いています。

小林進様を文化協会の会長として当時50円の会費で歩みはじめました。あれからもう30年の月日が流れ、私も85才の年令となり、ものを書く事が重荷となりました。発足当時は他町村よりも先がけて文化協会を設立しました。其頃は優越感がありました。当時良き指導者と町当局の理解と援助があり発足できることは本当に嬉しく有難く感謝しております。この町に住む事の幸せを感じています。文化の名のもとに、多くのグループができ其活動は若い力と行動によって発展していく様子をみます時、本当に嬉しく有難く感謝申し上げます。日進月歩の目まぐるしい社会の中で幸せな生活を過ごしている私達は、良き町の理解者・リードと人それぞれに学ぶ事を忘れず、常に己を見つめて求めつつ人と人の繋がりを大切にして、お互いに教えられ教える事が日常生活の中に生かされ、楽しみつつ学びつつお互いに手をつなぎ、人に迷惑にならない様に、少しでも社会のために役立つ老人である様に思っています。

以上とりとめのない文ですが、よろしくお願ひいたします。



庭先で

### 文化協会の今昔

元会長 丸山光夫

東部町文化協会発足30周年おめでとうございます。

初代寺島長虎会長、2代目小林進会長、私は3代目の会長に推され平成元年4月から6年間、その前に副会長を約10年間お世話になりました。

協会発足以前から町には同好者のグループがありました。絵画・写真・書道・華道・茶道・菊花・民謡・民踊（後に舞踊と改名）等々の代表者の方へ、町社会教育課の呼びかけがあり、会合を重ねて、昭和48年11月14日に東部町文化協会が正式に発足したのです。

昭和59年協会報を発刊することになり、「東部町文化協会だより」を全戸に配布して、協会への加入、参加を呼びかけました。

グループの発表会や、展示会を奨励して加入する人も増加して、菊花展に併せて開催した文化祭は、多くの皆さんに親しまれ定着して参りました。

文化協会も31部会約200グループとなり、会員約1,850名となりました。

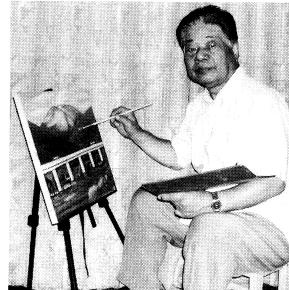
会報も年一回全戸に配布され、名称も途中から「せせらぎ」と改名しました。

平成2年にはサンテラスホール東部町文化会館が完成し、文化の殿堂として近在に名を広め、此処を拠点に、中央公民館、勤労者会館、隣保会館等、和、祢津、滋野、田中の地区公民館を始め各学校も開放して、町民一人一学習の目標に向かってその成果を確実に実現しつつあります。

東部町は日だまりの里で、新鮮な空気、水、果物、高原野菜等に恵まれた環境で、長寿日本一、老人医療費の低い町、平和で、健康な町づくりの目標に向かって、心（文化協会）と身体（体育協会）が、両輪となって見事に調和した、芸術文化の薫る町として町民一人一人に定着して参りました。

一人より二人更に三人、仲間と共に生涯学習に励むことが長寿の道かも知れません。

益々東部町文化協会の御発展をお祈りいたします。



趣味の描画

## 30周年に寄せて

前副会長 小林清枝

東部町文化協会発足30周年を迎え、おめでとうございます。昭和48年の発足当時、役員さんは会運営について大変ご苦労なさったと伺って居ります。私も若い頃より華道、舞踊を稽古していましたので、その頃から入会させて頂きました。

昭和60年度、会長小林進さん、副会長丸山光夫さんの時に私が副会長を仰せつかり責任のあるお役でありますので迷いましたが、皆さんに支えられてお引き受けすることになりました。

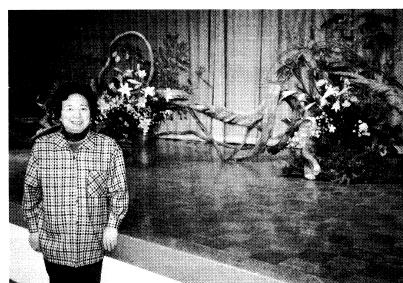
当時会員数1700名に増加して、各部門も活発に活動されて中央公民館にて文化展、音楽や民謡、舞踊等発表会が盛大に行われるようになりました。

その頃一番の思い出は、何と言っても平成3年3月に町民待望の文化会館がオープンしたことです。東部町文化活動の拠点が完成したことは会員皆さんの大好きな喜びでした。

初めてサンテラスホールに入った時、西陣織緞帳(幻彩夢)の美しさに目を見張ってしまいました。音響効果も良く客席からの眺めもすばらしく町自慢の会館ができ上ったのです。開館祝賀祭には玄関ロビーへ華道部による大作活け花を飾り、ホールでは町民の合唱「土の歌」がオーケストラの演奏にて行われ、その迫力に感動しました。会館一周年記念には展示室にて町ゆかりの丸山晩霞展、正村竹亭展、寺島長虎展それぞれ先生方の絵画展が催されたことなどが深く印象に残っています。以後会館も芸術文化の殿堂として、大いに町の発展に繋がっていると思います。

私は役員を平成7年3月まで努めさせて頂きました。この長いあいだ会員皆様のご協力とお力添えがあっての事と深く感謝して居ります。

今回文化協会30周年の大きな節目を迎えました。生涯学習の場として、その役割は増え大切になっていくでしょう。新しい時代と共に発展される事を、ご祈念申し上げます。



総合文化フェスティバルの準備

## 30周年記念によせて

前会長 関義豊

協会30周年を迎え、共に在りし日を偲び、心よりお祝いを申し上げます。

私の役員の経緯は、平成元年監事就任、平成3年副会長白鳥正志氏の病いにより中途継任、平成4年5年6年と3年間、副会長兼会計担当、平成7年度総会にて協会長就任、3期6年間を経て、平成13年度総会を以て退任しました。

平成14年度の総会に於いて、協会より感謝状を賜りましたことは、在任中に於ける会員の皆様方よりの温いご指導とご協力に深く厚く感謝を申し上げます。

任期中を顧みますと、平成4年に協会事務局が、文化会館に移行、平成3年度より、いきいき生涯学習塾が開講され、平成14年の秋には町ふるさと創生事業として、第1回東部町短詩型文学祭が創立発足をして、今年は第10回目になります。

平成5年度に第1回役員研修会が始まり、軽井沢町の各博物館、文化財、記念館等を廻り、第1回として盛会であり、現在に至っていることに感激をしております。

在任中印象にあることは、平成10年の東部町総合文化フェスティバルの公民館3階展示会場が、前回までは中央が遮蔽パネルで仕切られて二室に分離していたが、役員の協力を得てこの会場の分割図面を作り、華道書道絵画学校関係が一堂に展示され、明るくなった会場で拍手を戴いたことが、大変印象に残っており、毎年のフェスティバルを見るたびに思い出されます。

私達の町も平成2年頃より全国的に広がって来た、生涯学習事業をいち早く取り入れ、これが現在のいきいき生涯学習として、私達は人としての道や趣味を、学び探して生きがいを求め助け合って、温い心でこの生涯学習を育み心の糧として、また文化協会もこの一翼を担って、この30周年記念に心を新にして、益々ご繁栄とご発展なされることをご祈念申し上げます。



元高見山関と

## 趣味は生き甲斐

元副会長 佐 藤 利 秋

写団SFC写真クラブの会長として、文化協会に参与させて頂いた私が、協会副会長としてお世話になったのは、平成7年から11年迄の4年間でした。その間、種々の趣味の大勢の皆様とおつき合いさせて頂き、良い人生経験をさせて貰った大変有意義な年月でもありました。

お陰様で、私は今でも写真クラブの一員として、活動を続けております。趣味というものは、本当に不思議なもので、撮影会や旅行には重いカメラや機材をかついで出掛けて行く事も多い訳ですが、本当に楽しくって、無我夢中でシャッターを切っている自分にふと気がつく事があります。正直言って趣味の為なら少々風邪気味でも、出掛けて行けば治ってしまうのです。数年前になりますが、ある方に誘われて、一度は是非行ってみたいと思っていた南米ペルーに旅行した事があります。それも、急な話で、出発迄に5日程しか余裕がなく、たまたま風邪気味だったけれど、それでも是非行きたい、そして未知の世界の人々や風景をカメラに収めたい一心で、早速医者に行き、点滴をして貰って出掛けて行きました。現地に着き、インカ帝国の築いた世界遺産の素晴らしさに触れた時、いつの間にか風邪の事など、すっかり消え去っていました。写真というものは、素晴らしい力を持ったもので、言葉の通じない人達とのコミュニケーションが自然にできて、何の不安もなく、心から楽しむ事ができました。

現在も時間の許す限り、世界の各地を探訪し撮影を楽しんでおります。

数年前より女性の写真クラブもできて、男女合同で撮影会や旅行に参加しております。女性の皆さんも大変腕が上がってきました。

年に一度SFC作品展を文化会館をお借りして行っております。今年も10月1日より6日迄予定しております。御都合の付く方は是非会員の皆さんの方作を観にいらして下さい。



インカ帝国の遺跡にて



丸山晩霞ゆかりの羽衣かしわの葉